

令和元年度 第1回 荒尾市地域づくり推進委員会 議事要旨

日時：令和元年 8月8日（木） 午前10時～午前11時30分

場所：荒尾市役所 市長公室

出席者：荒尾市地域づくり推進委員会委員

熊本県立大学 教授 澤田 道夫 委員

熊本県建設業協会荒尾支部 副会長 中尾 光生 委員代理

女性ネットワーク荒尾 コスモス会 会長 今村 美希 委員

社会福祉法人 荒尾市社会福祉協議会 事務局長 小川 公子 委員

一般社団法人 荒尾青年会議所 専務理事 宮崎 高 委員

荒尾市花いっぱい推進協議会 副会長 山本 恵美子 委員代理

荒尾地区協議会会長会 会長 河部 啓宣 委員

市民公募委員 甲木 喜一朗 委員

荒尾市校長会 会長 寺尾 俊二 委員 ※公務都合により欠席

【事務局】

市民環境部長：松村部長

荒尾市くらしいきいき課：浦浜課長、林田係長、殿崎

1. 開会

浦浜課長（荒尾市くらしいきいき課）が開会を宣言し、資料の確認を行った。

2. 委嘱状交付式

委員9名に委嘱状の交付を行った（うち2名は代理出席者に交付、寺尾委員には後日交付を行った。）。

3. 市長挨拶

本日は大変お忙しい中、荒尾市地域づくり推進委員会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。委員の皆様には日頃から市政の運営に関しまして、御協力をいただいておりますことに重ねて御礼申し上げます。本市におきましては、今年度から、地域に参入し、地域課題の解決策をともに考えていくため、地区担当職員制度を導入します。また、併せて、地区別計画の策定を行い、地域に合わせたまちづくりの計画をまとめていきたいと思っております。こういった取り組みを進める中で、市職員の現場意識の醸成を図り、より市民目線に立った市政運営につなげてまいりたいと思っております。

本日は、荒尾市の地域づくりの取り組み・現状について検証・ご助言をいただき、荒尾市の持続可能な地域づくりを進めていくため、忌憚のないご意見をいただければと思ひ

ます。

4. 委員紹介

事務局から当委員会の委員について別添の出席者名簿に基づき、紹介を行った。

5. 会長・副会長選任

荒尾市地域づくり推進委員会規則第4条に基づき、会長、副会長の選任を行った。

委員の自薦・推薦がなかったため、事務局案として、会長に、熊本県立大学教授の澤田委員、副会長に、女性ネットワーク荒尾コスモス会会長の今村委員の就任を提案し、承認された。

◇会長・副会長挨拶

・澤田会長

これからの地方自治は住民の力無しでは考えられず、行政の力だけでは維持していくことはできない時代となってきた。本日は、委員の皆様から貴重なご意見を頂戴し、これからの荒尾市の地域づくりを考えていきたいので、よろしくお願ひしたい。

・今村副会長

地域づくりにおいて、男性も女性も自分の力を発揮しながら、まちづくりに取り組んでいく必要がある。本日は、様々な団体から、様々な年代の方に集まっていたいので、多角的な視点から多様な意見をいただければと思う。

6. 審議

議事(1)「各地区協議会の事業実施状況及び協働の地域づくりに関する取組状況」について

事務局から資料1-1に基づき、地域づくり推進委員会の概要について説明を行った後、資料1-2及び1-3に基づき、平成30年度の地区協議会の活動状況と令和元年度の地区協議会事業計画について説明を行った。続いて、資料1-4に基づき、荒尾市くらしいきいき課で行った、協働の地域づくりの推進に係る事業実績について説明を行った。

《主な意見・質問など》

○地域行事への若い世代の参加はどの程度あるか。

⇒グラウンドゴルフ大会や、ペタンク大会などでは参加者の中心は高齢者である。一方、各地区の祭りなどでは、子どもたちの参加を促しており、成長した子どもたちが地域イベント運営に携わっていくような仕組みづくりに取り組んでいる。(事務局)

○イベントへの子どもの参加について、学校合併の影響で、二地区の生徒が通っている学校については、両方の地域行事に学校行事として参加することは難しく、学校がない地

域への行事参加が進んでいない状況がある。

○有明地区では地区協議会主催の祭りへの子どもたちの参画が進んでいる。一方で、その他の行事への子どもたちの参加は少ない。

○子ども会活動が減ってきている。PTAも会議が多い等の理由から、なり手が不足している状況である。

○私が住んでいる地域では、子どもの数の減少や役員負担からのなり手不足などの要因のため、子ども会の運営が成り立たない状況となっている。地区協議会内での「子ども部」発足の提案もあったが、こちらも地区協議会上の役員になることによって、会議や除草作業へ参加せざるを得なくなり、負担増につながるのではないかという懸念があり、進んでいない。

また、子どもたちも塾やスポーツなどで土日が忙しく、会の活動に参加できないため、参加している意味が見出せないとの意見もある。地域活動やPTAの活動についても参加するメリットを明確に打ち出していく必要があると思う。

○防犯パトロール・防災訓練については資料に載っているもの以外にも実績があると思うが、データの取り方はどのようにしているのか。

⇒今回の資料については、地区協議会で行っている事業のみを記載している。自治会単位で実施されているものについては、全てを把握できていない現状があるため、関係課から情報収集を行い、地域活動の状況を取りまとめていきたい。(事務局)

○子どもたちの地域イベント企画・運営への参画について詳細を知りたい。(澤田会長)

⇒コミュニティスクールの一環として行っている。同取り組みに参加した小学生が中学生となり、地域イベントや清掃活動などのボランティア活動など、地域活動への参加が増えている。(事務局)

○この取り組みが最も進んでいるのが一小校区であると思われる。地域と小学校でイベントの運営会議を行っており、子どもたち自身がイベントの中での役割を考えて取り組んでいる。

○小学生にどの程度の役割を期待していいか分からない地域もあると思うので、ノウハウを持っている地域が他の地域に情報を伝えていただきたい。

○万田中央地区には地域拠点を設置されたとのことであるが、他地区についてはどのよ

うに考えているか。

○地域拠点設立は以前から要望を行っていた。他自治体では、一部、行政機能を持っている施設もある。他地区は公共施設や公民館を使って会議などを行っている現状があるため、他地区への設置をお願いしている状況である。

○PTAの役員等を辞められたあとも引き続き、地域活動に参加してほしい。また、中学校との連携を強めていく必要があるが、一つの中学校に複数の地区の生徒が通っているため、地域側、学校側双方としてコンタクトがとりづらい状況にある。

○中学、高校で地域から切り離されるのは他自治体にも共通する課題である。

○中学校の校区会議は行われているので、そちらに地域の方が参加されてはどうか。

○学校の施設自体が地域から離れているのも原因の一つであると思われる。

○中学校側としても、人力的な理由があることは理解できるが、中学校との連携を進めていくことは課題である。

議事（２）「地区担当職員制度及び地区別計画の策定」について

事務局から資料 2-1 に基づき、地区担当職員制度導入の経緯と概要について説明を行った。続いて、資料 2-2 に基づき、地区別計画及び地区別ワークショップの概要について説明を行った。

《主な意見・質問など》

○地区担当職員の選出基準はどのようなものか。

⇒原則、居住地域外から選出している。担当職員業務で培ったノウハウを居住地域の地域活動に活かしてもらいたいと考えている。（事務局）

○居住地域外の地域活動を見ることで、居住地区の地域活動に新たな視点をもたらすことが期待できる。

○地区担当職員とくらしいきいき課の業務の住み分けはどのようなになっているか。

⇒今年度の運用に関しては重なる部分もある。地区ごとに運営状況が異なるため、地域の実情に応じて、業務内容を調整していく必要があると考えている。（事務局）

- ワークショップ参加などでらしいいき課の業務負担が増えると思われるため、地区担当職員に任せる部分を整理し、らしいいき課は情報集約を行うなど業務の整理は必要である。
- 地域の自治力強化（ネットワークづくり）のイメージについて改めて説明をお願いしたい。地域が地区担当職員に依存しないような線引きが必要だと考えるがどこまで支援を行うのか。
⇒地区担当職員の判断に任せる部分もあるが、地区の自治を阻害しないような支援を考えていく。（事務局）
- 担当職員は相談員・パートナーとしての立ち位置を維持しないと、地域の自治力低下を招いてしまいかねない。地域活動の相談相手としての立場を明確にしておく必要がある。
- あらおしあわせ探しトークについて、昨年の形式では行政批判が多く建設的な意見が出にくい形であったと思う。批判ではなく有意義な話ができるよう、テーブルワークのような形式にしてはどうか。
- 司会をする方のスキルもあると思う。建設的な意見が出るように前置きをしていたが、意見・陳情は少なくできるようコーディネーターと打ち合わせが必要である。
- 南新地の開発について地域を巻き込んだ取り組みをしていく必要があると思われる。スマートシティ・ウェルネス拠点等について地域への説明をしっかりと行っていただきたい。
- ワークショップ開催時期・参加の方法について、広報への掲載だけでは不十分であり、参加が少なくなるのではないか。区長・自治会長からの周知も地域への有効な連絡手段であるため、しっかりと説明をしていただきたい。
- 地域づくりに対して建設業として何ができるかを考えている。有明地区では舞台づくりをしている。協会を通じて、依頼をいただけると検討できるので、建設業協会ではできないことはぜひ依頼してほしい。
- 社会福祉協議会としての機能が最も活かせる形を模索してかなければならない。地域の課題は以前と異なってきており、地域課題としては福祉的な課題が多くなっていると思われる。地域の自治力とともに、個人の力も弱まっている状況も考慮しながら私た

ちの地域へのかかわり方を考えていかなければならないと考えている。

○万田坑スケッチ大会を行っているが参加が減ってきているので、各団体と協力しながら参加促進を行っていく。

○担当職員については若手職員の人材育成の面も考えて運営していただきたい。

○ビジターセンターができたが、近くに飲食店がないことが課題であるとの意見が地域から挙がっている。

⇒環境省が作った施設であり、現在、敷地内での物販が制限されている。近隣にも飲食店がない状況は把握しているため方策を考えているところである。(事務局)

○有明の里の宣伝などをしていってはどうか。

⇒サンセットカフェの際には市内の飲食店に協力をいただいている。土日だけでも市内の飲食店から出店できないか考えている。(事務局)

澤田会長 様々なご意見をいただいた。中学校に地域に入ってもらう、地区担当職員にまちづくりのパートナーとして関わってもらうなど、今後も取り組むべき課題は多くある。団体それぞれが持つ得意分野を生かしながら地域づくりを考えていっていただきたい。

7. その他

市民環境部松村部長から挨拶を行った。

お忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございました。荒尾市では、地域団体、企業との協働による花のまちづくりやコミュニティスクールの推進などに取り組んでいます。今回、地区担当職員を導入し、職員と地域との関わりを強化し、より住民目線にたった行政運営に取り組んでまいります。本日頂いた貴重なご意見については庁内で検討を行いまして、荒尾市の協働の地域づくりの推進に努めてまいります。

8. 閉会

浦浜課長が閉会を宣言した。